



カーネーションが彩る「母の日」に比べると地味ではあるが、きょう6月15日は「父の日」である。

全国で今、婦人部の希望総会が真っ盛り。だが、多忙な中でも、わずかの時間でいい。社会と地域で踏ん

張る壮年陣に、家族と同志から、ねぎらいの言葉を掛けたい。

写真は1984年（昭和59年）12月の神奈川。太平洋から押し寄せ、はじける波しぶき、受け止める防波堤を池田名誉会長のカメラが捉えた。

その光景は、厳しい社会の現実には耐え、宿命転換を懸けて格闘する壮年の姿にも似ている。

きょう一日、父たちは、女性を支え、青年を守り育てる「黄金柱」の誓いを新たにしたい。



意気に燃えてこそ

「壮年」

きょう
父の日

聖 教 新 聞

2014年(平成26年) 6月15日(日)

壮年の「壮」の字には、
「勢いが盛ん」
「意気に燃えている」
等の意味があり、
ほかにも「元気づける」
という意もある。
自分だけでなく、

周囲を励ます力を持つのが
「壮年」とはいえまいか。
青年にあれこれ言うのではなく、
率先して模範の姿を示していこう。
大事なものは「今」である。
壮年が立ち上がるのだ。



インドからはるばる来日した壮年リーダーに励ましを送る池田名誉会長（東京・八王子市で）

仏法は勝負だ。
断じて勝たねばならない。
その偉大な父の背に、
青年が陸続と続くのだ。

人間同士の交流が希薄な現代だ。
だからこそ今は、
いぶし銀のように
黙して語らず。よりも、
気さくな「おじさん」の
励ましの一言の方が、
金の光を放つ。

壮年は皆、
それぞれ風雪に鍛えられた
顔を持っている。
だが、そこに醸し出される威厳と
「威張る」ことは違う。
気難しくなったり
気取ったりせず、
周囲に心を配り、声を掛け、
何か手を差し伸べていくことだ。

ご主人が朗らかで、
毎日 愉快的な気持ちであれば、
家族も楽しく 安心する。
笑顔と思ひやりの一言があれば、
奥さまのほうでも態度は変わる。
お互いに、
温かな笑顔で 朗らかに、
毎日を生きていただきたい。